

平成30年5月28日

平成29年度
事業報告書

社会福祉法人岩手愛児会

平成29年度 法人事業報告

平成29年度は、極めて厳しい経営環境の中で、経営の健全化、利用者への質の高いサービス、法人運営の透明性、法令遵守、働きやすい職場環境の整備等を念頭に、次の重点事項に取り組んできた。

I. 運営方針の実施状況

1 外部評価及び外部監査等に基づく法人運営課題の改善

法人の「中・長期計画」は28年12月に策定し、この計画に基づいて事業を進めてきたところであり、施設整備計画では、みちのく・みどり学園の移転新築建設工事の基本設計業務をプロポーザル方式により委託業者を選定したところである。

ことりさわ学園では、法人の「中・長期計画」を踏まえ30年2月に「福祉サービス第三者評価」を受審したが結果については新年度に繰り越しとなった。

盛岡市の法人指導監査は、社会福祉法の一部改正後初めての指導監査であったが3項目の指摘を受けそれぞれ改善を行ったところである。

公認会計士事務所による監査は、会計、経理、決算及び業務全般の監査を5回受検し、財務運営、会計処理等について、専門的立場から個別の細かい指摘、指導を受けそれぞれ改善を行ったところである。

2 経営健全化の推進

経営の健全化を掲げて14年が経過した。この間、第Ⅰ期(平成14年度～18年度)は、初年度から著しい経営収支の改善があり、この期間の計画達成となった。第Ⅱ期(平成19年度～23年度)は、初年度時点で多額の現預金を保有し、平成20年度には借入金の繰上償還を実施できた。しかし、平成21年度から平成23年度は、様々な要因(借入返済負担、設備整備及び利用者減等)から施設及び病院の欠損が続いた。第Ⅲ期(平成24年度～28年度)の初年度は、経営改善が功を奏し施設及び病院会計とも剰余金が生じたが、25年度、26年度は、新規入所児の減少、施設基準の引下げ及び患者の減少等により施設、病院とも経営は大変厳しくなった。27年度は、施設会計は剰余、病院会計も患者数の増、国の公的病院等の助成措置に大幅な剰余を得た。28年度の施設会計は積立金・引当金の確保ができたが、病院会計は入院患者の確保の困難や国の補助金の大幅減に伴い大変厳しい状況となった。

28年12月に策定した「中・長期計画」では、各施設、病院の財政基盤の安定化が喫緊の課題であるが、本年2月の理事会でこども病院を平成31年3月末で病床を持たない「診療所化」を決定したところであり、これは法人設立以来の最大の懸案事項を抱えることになった。

29年度の経営は、みどり学園は施設整備寄附金33,052千円を含む35,871千円の剰余、ことりさわ学園は19,006千円の剰余、こども病院は、事業活動経費は大幅に削減したものの入院患者の確保の困難等もあり22,668千円の欠損と大変厳しい状況となった。

3 各施設及び病院と連携した強い防災対応体制を検討し整備する

IV. で報告

4 職員の健康管理、安全衛生体制を整備する

V. 及びVI. で報告

II. 法人の運営

1. 理事会、評議員会等の概要と審議経過

(1) 理事会

① 理事（定数10～14、現員13）

会 長	藤澤 昇
理 事	米沢俊一、千葉伝、野原修一、藤川智美（～5/31）、臼井康雄、猿舘和雄、木村泰雄、村井軍一、鈴木俊祐、花籠和博（6/23～）、川島達夫、佐藤巖、西山秀則

② 開催状況

平成28年度事業報告、収支決算及び平成29年度事業計画、収支予算、補正予算その他の業務を審議するため、次のとおり開催した。

	年月日	出席	審 議 事 項
206	29. 5. 26	12	<ul style="list-style-type: none"> ・施設整備等積立金等の積立て及び積立てに係る平成28年度収支補正予算(案)承認について ・平成28年度事業報告(案)、収支決算(案)及び監査報告承認について ・社会福祉法人岩手愛児会第80回評議員会開催について ・手当の支給に関する規則の一部改正について ・監事の選任議案について
207	29. 6. 23	12	<ul style="list-style-type: none"> ・会長の選任について ・会長の職務執行状況報告について
208	29. 9. 29	9	<ul style="list-style-type: none"> ・定款細則の一部改正について ・盛岡市の監査に対する改善事項について ・経理規程の一部改正について ・会長の職務執行状況報告について
209	29. 12. 2	12	<ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉法人岩手愛児会 みちのく・みどり学園移転新築建設工事基本設計業務の委託契約の承認について ・みちのく・みどり学園前期末支払資金残高の取崩し承認並びにことりさわ学園前期末支払資金残高の取崩し承認について ・平成29年度収支補正予算(案)承認について ・育児休業に関する規則の一部改正について ・会長の職務執行状況報告について
210	30. 2. 2	12	<ul style="list-style-type: none"> ・もりおかこどもの診療所化に伴う事業変更の実施について ・会長専決処分の報告について
211	30. 3. 28	11	<ul style="list-style-type: none"> ・平成29年度収支補正予算(案)承認について ・平成30年度もりおかこども病院退職給付積立金の取崩しの承認について ・平成30年度事業計画(案)及び収支予算(案)承認について ・施設長の任免について ・みちのく・みどり学園移転新築基本設計の承認について ・定年に関する規則の一部改正について ・社会的養護処遇加算分の支給について ・会長の職務執行状況報告について

(2) 評議員会

① 評議員（定数11～15、現員14）

評議員	松木光平、高橋典成、鏡英夫、久保榮子、高橋正徳、遠藤博孝、菊池輝光、及川俊一、佐々木悦子、高畑アサ子、平野勝彦、佐藤東吾、刈谷忠、村上武男
-----	---

② 開催状況

平成28年度事業報告、収支決算及び理事、監事の選任並びに役員等報酬規程等を審議するため、次のとおり開催した。

回	年月日	出席数	審議事項
80	29. 6. 23	8	・平成28年度事業報告(案)、収支決算(案)及び監査報告承認について ・理事13名及び監事2名の選任について ・社会福祉法人岩手愛児会「役員等報酬規程」について

(3) 評議員選任・解任委員会

① 評議員選任・解任委員（定数3 現員3）

委員	梶田裕之、工藤實、木村正樹
----	---------------

② 開催状況

平成29年度はなし

2. 監査の概要と監査状況

(1) 監事監査

① 監事（定数2 現員2）

監事	工藤 實、榑 廣
----	----------

② 監査状況

平成29年4月1日から同30年3月31日までの事業年度における理事の業務執行、法人の財産の状況、会計の執行状況その他について次のとおり監査を受検した。

開催年月日	出席数	内 容
29. 5. 17	2	平成28年度事業報告書、収支決算書、法人の財産の状況 (盛岡市長宛監査報告書提出)
29. 8. 29	2	出納調査（4～6月分）
29. 11. 17	2	出納調査（7～9月分）
30. 2. 21	2	出納調査（10～12月分）

(2) 会計事務所監査

公認会計士事務所による内部統制的監査を次のとおり受検した。

開催年月日	監査員	内 容
29. 4. 26	2	現金実査、証拠書類、諸帳簿及び試算表の確認(1~2月分)
29. 5. 15	2	平成27年度決算監査
29. 8. 28	2	現金実査、証拠書類、諸帳簿及び試算表の確認(4~6月分)
29. 11. 15	2	〃 (7~9月分)
30. 2. 20	2	〃 (10~12月分)

3. 法人の主な動向 (経過)

月	法 人 経 過
4	・改正社会福祉法に基づく法人の定款変更登記 ・みちのくみどり学園地域小規模児童養護施設「村田ホーム」の開設
5	・職員定期健康診断(1回目)
6	・創立60周年記念式典、記念シンポジウム、記念祝賀会、永年勤続職員表彰を挙行 ・盛岡市保健所による医療監視(もりおかこども病院)
7	・第1回みちのく・みどり学園移転新築推進会議を開催
8	・第43回種市転住 ・(株)カガヤへ寄付金贈呈式、感謝状贈呈式の挙行
9	・岩手県による児童養護施設指導監査(みちのくみどり学園・ことりさわ学園)
10	・みどり学園移転新築建設工事基本設計業務をプロポーザル実施要領の公示
11	・職員定期健康診断(2回目)
12	・みどり学園移転新築建設工事基本設計業務を(株)中居都市建築設計に委託
2	・ことりさわ学園学園創立30周年記念式典の開催及びことりさわ学園学園公開 ・ことりさわ学園 福祉サービス第三者評価を受審
3	・第145回退園・退院式

4. 主な寄付先

(1) 一般寄付

月	寄 付 先
6	みちのくこども療育センター父母の会 (盛岡市)
7	みちのくこども療育センター父母の会 (盛岡市)、(株)日配運輸 (矢巾町)
8	板倉小児科クリニック (奥州市)
12	(株)日配運輸 (矢巾町)、(株)カガヤ (盛岡市)
3	(株)日配運輸 (矢巾町)

* 法人、団体の10万円以上を掲載

(2)みちのく・みどり学園移転新築建設寄附金

月	寄 付 先
6	特定非営利活動法人ナチュラルワークス（盛岡市）
7	医療法人祿三堂臼井循環器呼吸器内科（盛岡市）
8	（株）カガヤ（盛岡市）、板倉小児科クリニック（奥州市）
9	クリニック柏の葉（柏市）、村井産婦人科医院（盛岡市）
1	（株）ティエヌコンサルタント（盛岡市）

* 法人、団体の30万円以上を掲載

Ⅲ. 各施設の経営

定款に定められた法人の事業目的を達成するため以下の施設経営を行った。

1 第一種社会福祉事業

(1)児童養護施設「みちのく・みどり学園」

開設：昭和32年6月1日

定員：45名（内小規模グループケア12名）

(2)地域小規模児童養護施設「石川ホーム」

開設：平成17年7月1日

定員：6名

(3)地域小規模児童養護施設「盛合ホーム」

開設：平成27年4月1日

定員：6名

(4)地域小規模児童養護施設「村田ホーム」

開設：平成29年4月1日

定員：6名

(5)児童心理治療施設「ことりさわ学園」

開設：昭和62年4月1日

定員：50名（暫定定員41）

2 第二種社会福祉事業

(1)医療施設「もりおかこども病院」

開設：昭和44年3月27日

定員：64床

(2)乳幼児等健康支援デイサービス「たんぽぽ病児保育所」（盛岡市指定受託事業）

開設：平成7年6月5日

定員：6名

IV. 災害事故等安全対策

- 1 消防法に基づく消防計画のもと、災害発生時に安全に且つ迅速に避難ができるよう総合防災訓練、夜間訓練、避難訓練等を概ね毎月実施し、入院入所者の安全をはかった。

<防災訓練等実施状況>

- 4月 防災委員会の開催
避難場所・避難経路・防災全般の講話(防火管理者)
- 5月 夜間職員非常招集連絡訓練(連絡網)
- 6月 総合防災訓練(通報・第一避難所避難・消火)(盛岡中央消防署・消防設備点検センター立会)
総合訓練後防災委員会の開催
- 7月 防災映画鑑賞(防火教育ビデオ)、土砂災害想定訓練
- 8月 夜間避難訓練(非常放送・避難・防災講話)
- 9月 総合防災訓練(通報・第一避難所避難・放水訓練)(盛岡中央消防署・消防設備点検センター立会)
総合訓練後防災委員会の開催
- 10月 夜間避難訓練(非常放送・避難・防災講話)
- 11月 地震想定訓練(第二避難所避難)
- 12月 夜間職員非常招集連絡訓練(連絡網)
- 1月 防災映画鑑賞(防火教育ビデオ)
- 2月 夜間避難訓練(非常放送・避難)
- 3月 防災講話(盛岡中央消防署松園出張所)
- 2 施設設備の総合安全点検を実施したほか、以下の業務委託等による自主点検を実施し、万全をはかった。

① 消防設備保守点検	盛岡消防設備点検センター	年2回
② 電気設備保守点検	東北電気保安協会	年6回
③ 暖房給湯設備保守点検	三機商事	年1回

- 3 利用者の施設内外における障害事故に対応するため、引き続き障害保険等に参加し、万一の場合に備えた。

区 分	対 象 者
レクリエーション(傷害)・旅行保険	みちのくみどり学園・ことりさわ学園・もりおかこども病院・たんぼほ病児保育所
施設賠償保険	みちのくみどり学園・ことりさわ学園・もりおかこども病院・たんぼほ病児保育所
医師賠償責任保険	もりおかこども病院

4 防災設備の整備状況

- (1) 非常用自家発電機の燃料タンク増設(72時間稼働体制に)
(2) ポータブル発電機整備(3台)

V. 職員研修

各施設、院内研修及び各種専門団体、県主催による各種研修会に対して職員の派遣を行い、専門性の向上に努めた。

VI. 職員の福利厚生、健康管理

1 福利厚生

職員の福利厚生は、引き続き(平成6年度から)福利厚生センター制度に加入し、全職員(常勤145名)を対象にその充実に努めた。

2 健康管理

職員の健康管理については、各種健康診断・予防接種を実施し、健康の保持に努めた。

又、労働安全衛生法に基づく衛生委員会を毎月開催し、主な検討議題は

- ・定期健康診断の実施について
- ・ストレスチェックの取り組みについて
- ・インフルエンザ予防接種の実施について 等であった。

(1) 定期健康診断実施項目

検査項目	尿一般・血液検査(赤沈、HBS、生化学)・貧血検査・血圧測定 胸部レントゲン検査・胃透視検査・心電図検査・聴力検査・ピロリ菌検査・その他
------	---

(2) 予防接種(インフルエンザ) 11月実施)

(3) 健康診断の結果は、以下のとおりであった。

検査項目	有所見者数	検査項目	有所見者数	検査項目	有所見者数
胸部X線検査	2	血圧	40	貧血検査	18
肝機能検査	22	血中脂質検査	46	血糖検査	11
尿(糖)検査	2	尿(蛋白)検査	5	聴力(4000Hz)	12
心電図検査	13	胃透視	9	ピロリ菌検査	39

実施者数 160名

(4) ストレスチェック

検査を受けた職員数 103名

1. 施設運営について

平成29年度は、創立60周年を迎え施設の多機能化、家庭に近い養育環境の小規模化に向け基本設計作成を中心に移転新築計画を具体的にスタートさせた。

さらに8月には厚労省から「家庭養育原則」に基づいた「新たな社会的養育ビジョン」が施行され、具体的な数値を盛り込んだ児童養護施設の今後の方向性が掲げられた。

当園としては、計画に沿った本体施設の小規模化や、地域分散化に向け3箇所目の地域小規模児童養護施設「村田ホーム」を4月に開設し、地域小規模児童養護施設の定員を18名と本園定数45名（小規模グループケアを含む）と合わせて、施設の受け入れ総数を計63名とした。

入所状況においては3名の入所児童があり、一時保護委託の初日在籍は7名を受け、平均在籍児童数51.8名で充足率は82.2%であった。

現状は、集団生活から徐々に小規模の日常生活を組み入れ、できる限り家庭的な雰囲気をつくり、児童一人ひとりが、安心して心豊かに成長するよう職員間で連携して行った。

防犯対策も行い昨年度は、大きな事故等もなく終えることができた。しかし子ども自身が抱える発達課題や不安定な情緒面と、さらに虐待症候群から起因する様々な問題行動から幾多のトラブル等があった。その中でも他機関からの助言や、個別に職員が寄り添い、子ども自身で行動の変化ができるよう取り組んだ。

しかし現行の職員配置基準では、職員の心身の疲労等は常にあり、リフレッシュできる増員体制が急務である。また、学校や児童相談所などとの連携を密にするように努め、情報交換会議等で子どもに関する情報を共有し、地域のネットワークを通じて養育の確立を目指しています。そして集団生活から家庭的な支援への移行期間であり、組織として養育体制の確立と情報の共有化、人材育成等の様々な課題を乗り越えていかなければならない。

①児童の入所動向について

- ・4月1日の在籍人数は53名でスタートし、3月末は48名であった。
- ・29年度の入所児童数は幼児0名、小学生2名、中学生1名、高校生0名の3名であった。
- ・県内児童相談所からの一時保護委託は初日在籍7名であった。

②児童の退所動向について

- ・29年度の退所児童数は、幼児2名（家族再統合）、小学生1名（家族再統合）中学生1名（家族再統合）、高校生3名（家族再統合1名、就職2名）

2. 運営方針について

(1) 施設の小規模化移行にともない家庭的養護の取り組みを進める。

- ・平成32年度の開設に向けて、法人の「移転新築建設委員会」「移転新築協賛募金委員会」の具体的な方向性を受け、現場の声を反映させた「基本設計」の完成と、「募金計画」を進めることができた。

- ・3箇所目の地域小規模児童養護施設「村田ホーム」を開設し、女子児童6名が家庭的な雰囲気の中で安心して生活している。
- ・里親専門支援相談員の活動実施について、岩手県福祉総合相談センターや他の施設と連携し、里親訪問10件、レスパイトケース1件、サロン参加1回、里親交流会への参加4回、定例会議10回を行った。

(2) 子どもの権利擁護・最善の利益を保障した養育支援体制の確立を目指す。

- ・子どもの生活環境を小規模化に移行しつつ、子ども会活動、スポーツ活動、伝統芸能等「育ちあい」を大切にし、協力し合える関係性を継続することができた。
- ・運営方針に基づいた、個別の自立支援計画や各グループの養育計画に沿って子どもの権利を学年別の活動も含め、権利ノートの活用等、子どもたちに最善の利益が保障されるように努めることができた。
- ・職員間の情報共有や、記録がスムーズに行われるようにパソコンを増やし、具体的に自立支援計画票等「すこやか日誌」機能の導入し整備した。
- ・岩手県立大学社会福祉学部三上邦彦教授から、職員のスーパービジョンを8回実施しソーシャルワークの向上につながった。
- ・医療的なケア・被虐待児の治療のため、もりおかこども病院の嘱託医との日常的な連携を含め、「未来の風せいわ病院」とも連携し、緊急入院対応などの多岐にわたる支援を受けることができた。
- ・5月と1月に「苦情解決第三者委員会」を開催し、児童から3件の苦情・意見に対応し解決したことを報告し「子守歌コンサート」も含め施設内の様子を見て頂いた。
- ・あめみや夢基金の児童応援助成金について、個別の趣味や医療器具、旅行体験、就職のための資格取得等、子どもたちがとても喜べる事業ができた。
- ・給食支援において、年間を通して年齢の応じた調理実習や、ホテルでのマナーを「クリスマス会」で体験することができた。各ホームにおいても衛生面向上のため随時研修を行った。
- ・第三者評価の受審は次年度に持ち越しになったが、グループに分かれて自己評価を行い課題や問題点を整理し、施設の質の向上に向けた「養護要領」の作成を始めた。
- ・退園後の支援について、特に高卒退園者の離職後のアフターケアを他機関と連携し情報共有と、入院対応や、グループホーム等の活用等他機関と連携し支援を行った。

(3) 安心・安全な施設づくりを目指す

- ・入所児童の安心・安全な生活を保障と外からの侵入者を含め、定期的な施設の点検（老朽化・死角）等点検、防犯・防災の意識をたかめる訓練を行った。
- ・法制度の周知に努め、職員から児童へ虐待に繋がる事項の点検や、年齢に応じた児童同士の暴力やいじめの問題について防止を図る取り組みを「CAPいわて」と連携して行うことができた。
- ・敷地内の小規模グループホーム「かりんの家」「鐘の館」、地域小規模児童養護施設「石川ホーム」「盛合ホーム」「村田ホーム」の各ホームと、本園の養育・支援体制の連携と、地域と共同した活動や防犯・防災対策を継続して行うことができた。

- ・各種マニュアルの定期的な見直しと、児童を生活支援や、環境面、衛生管理等、業務の中で多岐にわたった「ヒヤリハット」が49件あげられた。委員会で出された各事案に対して対策・検討等し、職員会議で改善策を提起し全員が共有出来るように行った。
- ・車両管理において、マイクロバスを廃棄し、父母の会から車両の購入の一部を補助して頂きワゴン車の購入を行った。

(4) 職員一人ひとりの専門性の向上に努める

- ・研修委員会を中心に人材育成、職場研修方針の策定に取り組んできた。さらに岩手県児童養護施設協議会と連携し「被措置児童の権利擁護（虐待防止）に関する研修会」に多くの職員が参加することができた。
- ・職員の専門性・権利意識の向上という意味では、テーマ別研修の年間計画を立てて多種多様な研修で講師招き実施できたことは成果があった。
- ・全養協、虹情報センター等のスキルアップ研修を、就労年数に応じて計画的に参加することができた。さらに新任職員1~2年目を対象に、西和賀を会場に地域養護活動の研修を行うことができた。
- ・大洋学園・一関藤の園の施設見学も含め、2グループに分かれて親睦を深めるための職員研修旅行ができた。
- ・年度末に園長の職員面談を実施し、できる限り職員の声を受け入れることができた。

(5) 開かれた施設づくりをめざし啓蒙活動の推進を図る

- ・西和賀町「NPO法人輝けいのちネットワーク」と共同で、幼児のファミリーホーム3回、小中学生のホームステイ、高校生活動で「いのち」の碑の集い等で参加できた。第44回種市転住（洋野町）・太鼓合宿・農作業体験等（室根・大東町）の児童の体験・経験の柱となる地域養護活動を継承することができた。
- ・盛岡・松園地区での地域養護活動の推進において、伝統芸能（野岳太鼓・豊年太鼓・大黒舞）、神輿も含めて、松園夏祭り、松園柔道教室に参画し地域との連携を深めることができた。
- ・近隣大学及び専門学校の実習生の受け入れにおいて、保育実習が5校17名、ソーシャルワーク実習2校4名、看護総合実習1校2名、介護体験実習4名の受け入れを行った。さらに学生のアルバイトやボランティアを受け入れて福祉人材の育成を行うことができた。
- ・「子どものふつうを考える福祉・教育・医療の会」の事務局を担い、他の機関と連携した取り組みができた。
- ・近隣市町村の地域子育て支援事業について、盛岡市は延べ38名・滝沢市が3名の利用があった。緊急的な対応もあり、引き続き受け入れ体制について整えていく必要がある

※資料 職員構成 入所（初日月別・学年別）状況

みちのくみどり学園 病種・学年別による入所児童・生徒の内訳

平成30年3月1日 現在

病種	幼児		小1		小2		小3		小4		小5		小6		中1		中2		中3		若竹		高1		高2		高3		合計		
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計	%	
虚弱児童合計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.00%
被虐待児	1	4	0	0	0	0	2	0	1	1	4	2	0	3	3	1	1	1	4	1	0	0	2	3	3	3	1	2	43	82.69%	
被虐待認定児	1	4					2		1	1	3	2		2	3	1			4	1		0	2	3	3	3	1	2	39	75.00%	
被虐待対象児									0	1				1			1												4	7.69%	
気管支喘息	1	1																							1				3	5.77%	
アトピー性皮膚炎														1			1													2	3.85%
アレルギー疾患																												1		1	1.92%
てんかん																	1													1	1.92%
脳波異常																														1	1.92%
脊椎小脳変性症																														1	1.92%
心疾患		1																												3	5.77%
無脾症候群・複雑心奇形																														1	1.92%
ADHD	1				1		1		1		3		1		1											1			9	17.31%	
広汎性発達障害									1																					3	5.77%
愛着障害											1				1															2	3.85%
反応性うつ病																											1			1	1.92%
自閉症スペクトラム症																														1	1.92%
肥満																														0	0.00%
顔面・両手火傷																														1	1.92%
ダウン症候群																											1			1	1.92%
悪性リンパ腫																														1	1.92%
軟骨異栄養症	1																													2	3.85%
低身長・低体重		1																												1	1.92%
要養護		2		0								2	1		1									1	2	1	3	1	1	17	32.69%
要養護児合計	3	5	0	0	0	0	2	0	1	1	4	2	0	3	3	1	1	2	6	1	0	0	2	4	4	4	1	2	52	100.00%	
合計	3	5	0	0	0	0	2	0	1	1	4	2	0	3	3	1	1	2	6	1	0	0	2	4	4	4	1	2	52		

みちのくみどり学園 入所児童・生徒の措置児童相談所別内訳

児相	岩手センター	岩手一関	岩手宮古	埼玉所沢	合計
幼児	8	0	0	0	8
小学生	10	1	2	0	13
中学生	7	3	4	0	14
高校生以上	12	1	3	1	17
合計	37	5	9	1	52

入所児童・学校別内訳

学校	なし	やよい幼稚園	青松支援	東松園小(地域)	松園中(地域)	県市立高校	私立高校	他の支援高	計
幼児	3	5							8
小学生			2	11					13
中学生			11		3				14
高校生以上			4			4	5	4	17
合計	3	5	17	11	3	4	5	4	52

みちのくみどり学園職員構成

職種別	職 種	施 設	児 童	保 育	保 健	看 護	心 理	栄 養	調 理	ボイラー 技士他	事 務	嘱 託	計
	長	指 導 員	士	師	師	士	士	員	員	医			
	定 数	1	14					1	4		1	1	22
	正 職 員	1	14	8		1	1	1	4	1	1		32
	臨 時 職 員		3										3
	非 常 勤			1						11			12
	嘱 託											1	1
	計	1	26		0	1	1	1	4	12	1	1	48

平成29年度 みちのくみどり学園入所（初日月別・学年別）状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均	12
幼児	9	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	97	8.1	
計	9	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	97	8.1	
小1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	
小2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	
小3	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	24	2.0	
小4	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	24	2.0	
小5	5	5	5	5	5	5	5	6	6	6	6	6	65	5.4	
小6	3	3	3	3	4	4	4	4	3	3	3	3	40	3.3	
計	12	12	12	12	13	13	13	14	13	13	13	13	153	12.8	
中1	3	3	3	3	3	3	3	3	4	4	4	4	40	3.3	
中2	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	36	3.0	
中3	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	84	7.0	
計	13	13	13	13	13	13	13	13	14	14	14	14	160	13.3	
高1	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	72	6.0	
高2	9	9	9	9	9	9	8	8	8	8	8	8	102	8.5	
高3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	36	3.0	
計	18	18	18	18	18	18	17	17	17	17	17	17	210	17.5	
中・高卒	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	
計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	
合計	52	51	51	51	52	52	51	52	52	52	52	52	620	51.7	
一時保護	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	2	0.2	
総合計	53	51	51	51	52	52	51	53	52	52	52	52	622	51.8	

1. 運営の基本

ことりさわ学園は、平成29年度創立30周年を迎え無事に記念行事を開催することが出来た。種別名称が児童心理治療施設に変わり、「新しい社会的養育ビジョン」がとりまとめられ、国は児童福祉施設に対して「小規模化・地域分散化」「多機能化・高機能化」を求める中で、岩手県は家庭的養育推進計画の見直しを図り、児童自立支援施設と児童心理治療施設を検討委員会の新たな検討委員としていく。今後、ことりさわ学園も委員のメンバーとして社会的養育における児童心理治療施設の在り方について積極的に協議、検討していきたい。

学園の初日在籍数は、前年度に比べ入所児童数が減少し、平成30年度は7年連続の暫定（39名）となっている。家庭的養育推進計画の推移を見ながら、入所定員数の削減を県や児相と協議しなければならない。

「ことりさわ学園 中長期事業計画」昨年度末に策定、それを基に平成29年度の運営方針を作成し運営遂行する中で、人材確保については7月に採用試験（平成30年度採用）を実施している。また、「福祉サービス第三者評価」を通常より1年早く受審しており、評価結果を基に施設の中長期事業計画の見直しを図っていきたい。

(1) 児童の入所の動向

- ① 4月1日に30名でスタートして3月末日22名となる。
- ② 入所児童数は9名で男子は自閉スペクトラム症、女子は愛着形成障害を背景とした学校不適応が多かった。
- ③ 県内児童相談所の措置状況（センター6名・一関3名・宮古0名）

(2) 児童の退所の動向

- ① 退所児童数18名（センター8名・一関7名・宮古2名・秋田1名）
- ② 学年別では高卒1名（就労支援）
 - 高校生6名（一般就労3名・就労支援2名・家庭引取り1名）
 - 中学生8名（家庭復帰6名・家庭引取り1名・他施設契約利用1名）
 - 小学生3名（家庭復帰1名・措置変更2名）

2. 治療・支援方針

(1) 心理治療

- ・29年度のマナー教室（SST）とセカンドステップは小学生を対象に実施。特にセカンドステップに関しては小学校6年生に焦点を当て、盛岡青松支援学校と協同で取り組んだ。
- ・心理療法士の体制（基準7対1）を確保。心理担当者会議を定例開催し、個別の心理治療方針を再評価しながら心理アセスメントを行った。
- ・盛岡青松支援学校とのケース会議において、心理の面からも情報を提供、共有化を図りながら支援を行った。
- ・個別支援会議を充実させ、個別対応職員や家庭支援専門相談員との連携強化を図った。

(2) 生活支援

- ・年度初めに各グループ（小学生、中高生男子、女子）に別れ生活オリエンテーションを実施。生活のルールを始めとし権利擁護についても説明を行ってきた。
- ・自治会のリーダー研修会を月1回で全12回開催しながら児童一人ひとりの意見を取り入れ、主体性や自主性を育んだ。
- ・健康学習を小学生女子1回、男子中高生1回、中高生女子1回実施し、思春期の児童に対してプライベートゾーンを中心に性教育等を行った。
- ・例年通り、児童に対する嗜好調査や保護者対象の試食会を実施し、給食に反映させた。
- ・法人の防災計画に従って、月1回（年12回）防災訓練を実施。入所児童および職員の防災、防犯意識を高めた。

(3) 医療、学校教育その他関係機関との連携

- ・盛岡青松支援学校とは病状説明会（年度初めに）、学校センター連絡会（生活指導を毎月1回、保健指導を年3回）、ケース会議（年8回）、進路指導連絡会（中学部及び高等部それぞれ年2回）等を開きながら連携を図った。
- ・リービングケアに限らず退所児童も含め、必要に応じてケア会議および支援会議等を開催し、医療、教育、福祉の連携を図った。
- ・各児童相談所（センター8/30、一関7/7、宮古8/7）との連絡協議会を実施した。
- ・盛岡市教育委員会事務局の協力を貰い、29年度から学園にも不審者情報をメール配信してもらい防犯強化を図ってきた。

(4) 家族との治療協力

- ・家族会を年6回開催し、29年度は“夏のご苦労さん会（バーベキュー）”の他、家族俳句教室を開催した。
- ・家族会で資料を作成し、法人理念や施設の運営方針等について説明する機会を持った。
- ・小学生グループ活動の一環として保護者の協力を貰いながら、スポーツ吹き矢教室にも取り組んだ。
- ・保護者の勉強会は日程調整がうまく取れず、次年度の課題となっている。

(5) 地域交流・地域貢献

- ・電話相談「心の相談室」では11件の相談を受け付け、継続相談2件、児相紹介6件、医療機関紹介1件、その他2件となっている。
- ・子どもの心身発達育成研究会の事務局として、事例研究会を年6回、学校教育相談研修会を夏季と冬季の2回開催した。
- ・岩手県学校教育相談研究会、盛岡市学校教育相談研究会の理事及び事務局員として協力をして来た。
- ・松園夏祭りや葛巻町民祭り、テンパーク祭り、療育センターサマーフェスティバル等へ和太鼓で参加、地域との交流を図った。
- ・地域（近隣町内会）へ働きかけ、切り絵教室を年6回開催することが出来た。

3. 人材育成と職員研修

- ・5名の新任職員に対し一人1名のスーパーバイザーを付け、新人のOJT促進を図った。
- ・職員研修委員会を10回実施。園内研修は新人5名に対し新任研修を5回、感染予防を2班に分けて1回実施してきた。また、昨年度実施できなかった、包括的対暴力防止プログラム(CVPPP)の園内伝達研修を2グループに分け職員全員参加で実施することが出来た。
- ・キャリアアップ研修は福祉職員キャリアパス対応生涯研修課程(新任者編5名、管理職員編1名)と児童心理治療施設職員指導者研修に1名、実習指導者フォローアップ研修に1名それぞれ派遣している。
- ・県立大(三上先生・田中先生)の協力もと、三上先生には3名の中堅新人心理職員を派遣。田中先生にはマナー教室(SST)のスーパーバイザーとなって頂いて個々のスキルアップとSV体制の強化を図った。
- ・全児心協議会の研修会へは全体研修会(大阪)2名、心理部会(熊本)1名を派遣、その他、県内児相との心理職員合同研修(1回)、岩養協職員研修(1回)、児童協職員研修(2回)、社会的養護学習会(2回)、療育センター研修会、未来の風せいわ病院研修会、いわてこどもケアセンター研修会、児童虐待対応研修会、給食従事者研修、リスクマネジメント研修、ペアトレ研修、自己評価・第三者評価研修会等々にも参加した。
- ・第8回北海道・東北ブロック職員研修会(札幌市児童心理治療センターこころば)に3名が参加。
- ・職員研修旅行は2グループに分かれて、青森の児童養護施設(藤聖母園)を見学した。

4. 施設整備及び職員配置

- ・職員配置基準に合わせ、5名の児童指導員(男性2名、女性3名)を配置し、家庭支援専門相談員1名増員をした。
- ・新年度の職員増にあわせて、職員室のノートパソコンとデスクの整備を行った。
- ・事業計画に基づき2階会議室にエアコンを整備。マーチを廃車にしてディズ(軽自動車)を父母の会より寄付して頂いた。
- ・男子トイレの洋式化や男子児童玄関の設置に関してはスペースの問題等で予算化出来ず、次年度に課題を残している。
- ・緊急非常連絡一斉メール配信ソフトを導入し、危機管理、危機対応の強化を図った。

(資料) 〈職員構成〉 〈初日在籍数〉 〈進路の動向〉

(資料1) 職員構成

職 種 別	職 種	施 設 長	医 師	児 童 指 導 員	保 育 士	看 護 師	心 理 療 法 士	栄 養 士	調 理 員	事 務 員	青 春 塾 講 師	計
	定 数	1	1	17		1	6	1	4	1	0	32
	正 職 員	1	1	12	4	1	5	1	2	1	0	28
	臨時職員	0	0	2	0	0	1	0	2	0	0	5
	非常勤	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
	嘱 託	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	計	1	2	18		1	6	1	4	1	1	35

(資料2) 初日在籍数 (充足率63.7%)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
男 子	18	20	20	20	20	19	19	20	21	20	21	21	239
女 子	12	12	13	13	12	11	11	11	11	12	13	12	143
計	30	32	33	33	32	30	30	31	32	32	34	33	382

(資料3) 進路の動向(中3)

	一般高校	単位制高校	支援学校	私立高校	その他	計
退 園	2	0	2	1	0	5
在 園	0	0	4	1	0	5

(資料4) 進路の動向(高3)

	進 学	就 職	その他	計
退 園	0	5	0	5

平成29年度 もりおかこども病院事業報告

1 経営収支等

(1) 患者数の動向

29年度の患者数の動向をみると、入院では前年度に比較して661人減の13,553人(1日平均37.1人)となった。外来では前年度に比較して193人減の24,000人(1日平均81.6人)となった。

(2) 患者1人1日当たりの平均収入

入院収入は、33,602円で前年度に比較して209円0.6%増となった。外来収入は、14,243円で前年度に比較して305円2.0%減となった。

(3) 収支の状況

当初予算では251千円の欠損を見込んでいたが、事業活動費(人件費、事業費、事務費)は前年度比21,846千円の削減があったものの、患者数が入院で682人、外来で108人見込みを下回る等収支均衡のバランスを保つまでに至らず22,668千円の欠損となりました。

2 医師体制の充実

(1) 医師の確保については、30年4月から常勤医5名、非常勤医(換算)1.5人の診療体制を維持しており、30年4月1日現在の医療法上の充足率は165%である。

(2) 児童の精神疾患に対する診療体制の充実のため八木淳子医師に週1回、滝川一廣医師に月1回の診療応援を得たところである。

3 小児救急医療

小児救急輪番日については、4月から6月までは月に土曜日2回の4コマで6回、7月以降は毎土曜日昼間の1コマで40回の輪番日で実施し、入院患者延97人(前年205人52.7%減)、外来患者延673人(前年687人2.1%減)の診察・治療に当たった。

4 医療安全管理

医療安全管理室に専従の職員を配置し、安全管理体制の構築を病院全体で取り組んでいるところである。感染防止対策加算2を算定する病院としての活動も6年目となり、加算1を算定する県立中央病院や加算2を算定する他の病院(岩手リハビリテーションセンター、国立病院機構盛岡病院)とともに情報の共有ができ、強化された感染対策を行うことが出来た。

5 小児在宅訪問診療

27年11月より専任の臨時医師を確保して週1回半日訪問診療を行う体制ができ、現在3名の超重症児宅を訪問し診療を行っている。

6 地域支援活動

地域の医療機関等に対する診療応援については、従来から積極的に推進してきたところであり、29年度においても病院10カ所、学校・保育園等18カ所及び市町村の乳幼児健診2町に対し協力を行った。

1. 患者数の状況（患者延数）

区 分		入 院		外 来		歯 科	
29	実績 a	13,553	人	24,000	人	3,034	人
28	実績 b	14,214	人	24,193	人	3,194	人
増減	a-b=c	△ 661	人	△193	人	△160	人
	c/b	△ 4.7	%	△0.8	%	△5.0	%

2. 一日平均患者数

区 分		入 院		外 来		歯 科	
29	実績 a	37.1	人	81.6	人	12.6	人
28	実績 b	38.9	人	82.3	人	13.1	人
増減	a-b=c	△ 1.8	人	△ 0.7	人	△0.6	人
	c/b	△ 4.7	%	△ 0.8	%	△4.2	%

3. 患者一人一日当平均収益

区 分		入 院		外 来		歯 科	
29	実績 a	33,602	円	14,243	円	5,794	円
28	実績 b	33,393	円	14,549	円	5,491	円
増減	a-b=c	209	円	△305	円	303	円
	c/b	0.6	%	△2.0	%	6.0	%

4. 病床利用率

区 分	29年度		28年度		増 減	
一 般	58.0	%	60.8	%	△ 2.8	%

(注) 診療実日数

区 分	入 院		外 来		歯 科	
29年度	365	日	294	日	240	日
28年度	365	日	294	日	244	日

平成29年度 たんぼぼ病児保育所事業報告

- 1 補助金は、基本分 2,423 千円、加算分 4,291 千円（年間延べ利用児童数に応じた実績払い）並びに改善分 721 千円余（赤字補てん分）等であった。

29 年度は 医療体制と緊急時のバックアップ体制があることを強みに安全安心の運営と、もりおかこども病院の協力によりポスターを掲示するなど周知を行った。年間の利用人数は 265 名と昨年度を上回ったが、近年の少子化・予防医学が進行していることから採算ラインの 400 名を下回る状況には変わりなかった。

当保育所は、利用時間が他の病児保育所より長いこと。また、給食部の協力により、病状・年齢に応じてこども達の嗜好に合わせた給食の提供を行ってきたところ利用者の声やリピート利用で評価がみられている。

広報活動（リーフレットの配布、ポスター掲示のお願い）を兼ね近隣は訪問、市内の保育園・認定子ども園 49 カ所に情報提供し必要な情報交換をおこなっており、たんぼぼ通信（流行中の感染症の情報や、その対処の仕方等）を年に 4 回利用者・各保育園等に発送し、好評をいただいている。

- 2 利用状況としては、感冒 111 名と大半を占め次いで胃腸炎 34 名と他疾患であった。新規利用者 56 名、再利用者がほとんどで総利用者数 265 名となった。

年齢別には 0～1 歳児が 55% 大半、2 歳（11%）3 歳（6%）4 歳（9%）5 歳（5%）、小学生は 12% 利用だった。

3 利用状況

	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
利用者数	366	311	231	249	265
月平均	30.5	25.9	19.3	20.8	22.08
1日平均	1.54	1.30	0.97	1.03	1.09
盛岡市以外	9	8	14	10	4

4 職員体制

常勤看護師 1 名、臨時保育士 2 名

職種	定数	正職員	臨時職員	合計
保育士	2		2	2
看護師	1	1		1
計	3	1	2	3

事業報告の付属明細書

平成29年度事業報告には、「社会福祉法施行規則」第2条の25第3項に規定する「事業報告の内容を補足する重要な事項」に該当する事項はありません。

